

「かざぐるま」発刊によせて

この度、市立札幌病院地域連携センター広報誌「かざぐるま」を発刊することとなりました。

市立札幌病院は明治2年に設立されて以来、時代の要請に応じ、北海道や札幌市の中核病院として、常に良質・高度な医療を目指して参りました。最近では、救命救急センターを中心とした急性期医療や総合周産期母子医療センターとして周産期・新生児医療に取り組むとともに、地域がん診療連携拠点病院としてがん診療に力を注いでいるところであります。さらに、平成19年には第一種感染症指定医療機関及び第二種感染症指定医療機関の指定を受けるとともに、北海道が策定した新たな医療計画の中では4疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病）5事業（救急医療、災害時医療、へき地医療、周産期医療、小児医療）に取り組む医療機関として位置づけられており、札幌市民の皆様の健康と医療を確保すべく努力しております。

しかし、近年、国民の医療に対する要求や期待は多種多様化し、多くの民間医療機関が特徴をもった充実した医療を提供するようになるとともに、自治体病院の存在意義そのものが問われる時代となってきました。さらに、医療制度改革や地方財政の悪化などの影響を受け、多くの自治体病院が閉鎖されたり、総務省が公立病院の公設民営化や民間移譲を推進するようになってきました。

このような時代背景の中で、市立札幌病院は32の診療科を有する病院として、多くの合併症をもったりスクの高い患者さんや、複数の診療科の専門医が治療

札幌市病院事業管理者
市立札幌病院長
吉田 哲憲



に当たらなければならない患者さんの治療に正面から取り組んで、地域医療に役立っていきたいと考えております。この機能を果たしていくためには、地域の医療機関との機能分化と連携が不可欠であり、この連携強化を目的に2008年4月に地域連携センターを設置いたしました。

市立札幌病院には既に、平成7年から札幌市医師会との協同事業で設置した地域医療室があり、札幌市医師会員の先生からの患者さん紹介の受診予約窓口として大きな役割を果たしてきております。しかし、当院から退院される患者さんの転院（後方連携）に関する機能を持っていなかったため、後方連携を目的とした地域連携センターを組織したものであります。

今回の、広報誌「かざぐるま」の発刊を機に、市立札幌病院地域連携センターの存在をご承知おきいただくとともに、市立札幌病院が地域の中核病院としての機能を果たしていきたいという思いをご理解いただくと幸いです。

どうぞ、宜しくお願いいたします。

市立札幌病院の基本理念

市立札幌病院は、すべての患者さんに対してその人格・信条を尊重し、
つねに“やさしさ”をもって診療に専心する。

運営方針

市立札幌病院は、基本理念をもとにつぎの運営方針によって市民が安心して生活が出来る都市づくりに寄与する。

1. 高度・特殊・先進医療の技術向上を図り、かつ後進の教育・研修に努める。
2. 地域の医療機関との連携を強化して、地域医療の向上に努め、また国内外の医療機関との交流を盛んにし、北の拠点都市づくりに貢献する。
3. 自治体病院として、経済性と公共性をともに発揮することに努め、かつ病院職員としての誇りおよびよこごびを持って、明るく健全な病院づくりを目指す。